

和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
ギンイチモンジセセリ	セセリチョウ科	文字通り「銀一文字」	x	◎	x	減少傾向



多摩川土手 中野島 4月下旬



多摩川土手 中野島 4月下旬 めったに羽を開いてとまらないが地味な褐色



多摩川土手 中野島 5月上旬 ハルジオンで吸蜜

成虫発生時期 (月)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○ 食草			食樹			発生回数/年		越冬形態			
ススキ、ヨシほか (イネ科)						2~3		幼虫			

中野島付近の多摩川土手では4月下旬あたりから食草のススキのあるところを中心に飛び、ヒメジオン、タンポポなどで吸蜜します。羽の表は黒っぽい褐色で特徴はありませんが、裏には銀の筋が一本はいるので見分け方が難しいセセリチョウの中で見間違えることはありません。飛び方が弱々しくチラチラと飛んでいる割にはなかなかとまってくれません。

蝶の採集をしていた高校生の頃に住んでいた兵庫県では珍しい蝶で、電車を乗り継いで産地に行ったのに姿すら見ずで落胆。ところが、三十年前にハイムに入居した春に裏の多摩川で沢山飛んでいるのを見つけ、その後は毎年おなじみの蝶となりました。

このあたりでは決して珍しい蝶ではありませんが全国的には減少してきていて環境省の「準絶滅危惧種」(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては、より危険度の高い絶滅危惧に移行する可能性のある種)に指定されています。

台風で多摩川が増水したときなど心配になりますが、今年も元気に飛び始めたのが確認でき安心しました。



多摩川土手 中野島 2020年4月25日
前年の台風19号による増水で生息地が水に浸かったが無事が確認できた。